

子どもの貧困予防ネットワーク構築のための社会資源ガイド

尾道市において貧困対策のネットワークを構築する事業を開始した。そこで、子ども食堂などの子どもの居場所づくり事業や地域の人々の居場所づくりを実践している団体による意見交換会などを実施し、団体間の交流やネットワークづくりについて検討し、地域住民も参加しやすい体制について検討を行う。市の子どもの貧困対策プロジェクトチームを中心に、子育て世代が必要な支援につながるため、わかりやすい『子育て支援のガイドブック(仮称)』の作成を目的に、尾道市の行政や専門機関だけでなく様々な住民組織、特に子ども食堂や子どもの居場所事業を実施している団体との連携やネットワークの構築に向けた体制を整備する。

プロジェクトは2本の柱で進めている。1つ目は尾道市役所にて子ども食堂を実施している団体および今後展開しようとしている団体と開設や運営についてグループミーティングを実施した。3か所の子ども食堂は地域の実情に合わせて子どもへの周知やボランティアの募集を行っている。食材は地元の人々の寄付が多いので、生鮮食料品は自前でできることが多い。フードバンクなどを利用するには手続が煩雑でない方がよいなどの意見が出た。

2つ目は尾道市役所において担当課を超えた子どもの貧困対策プロジェクトチームを構成し、子ども支援に関わるケースにおいて、官民の連携とネットワークを構築することである。その方法として、市民の人が手に取ってわかりやすい『子育て支援ガイドブック(仮称)』を作成する。ガイドブックは制度や機関の説明書ではなく、モデルケースを抽出し、妊娠期から中学卒業までの間の子育ての困難を考え、つながり先を示していくこととした。

尾道市役所で開催される子どもの貧困対策プロジェクトチーム会議に学生が参加し3事例を検討し、追加3事例についての困難とつながり先をグループワークにて検討した。また、子ども食堂にも参加し、ボランティアグループが実施する子ども支援のあり方について検討する。

